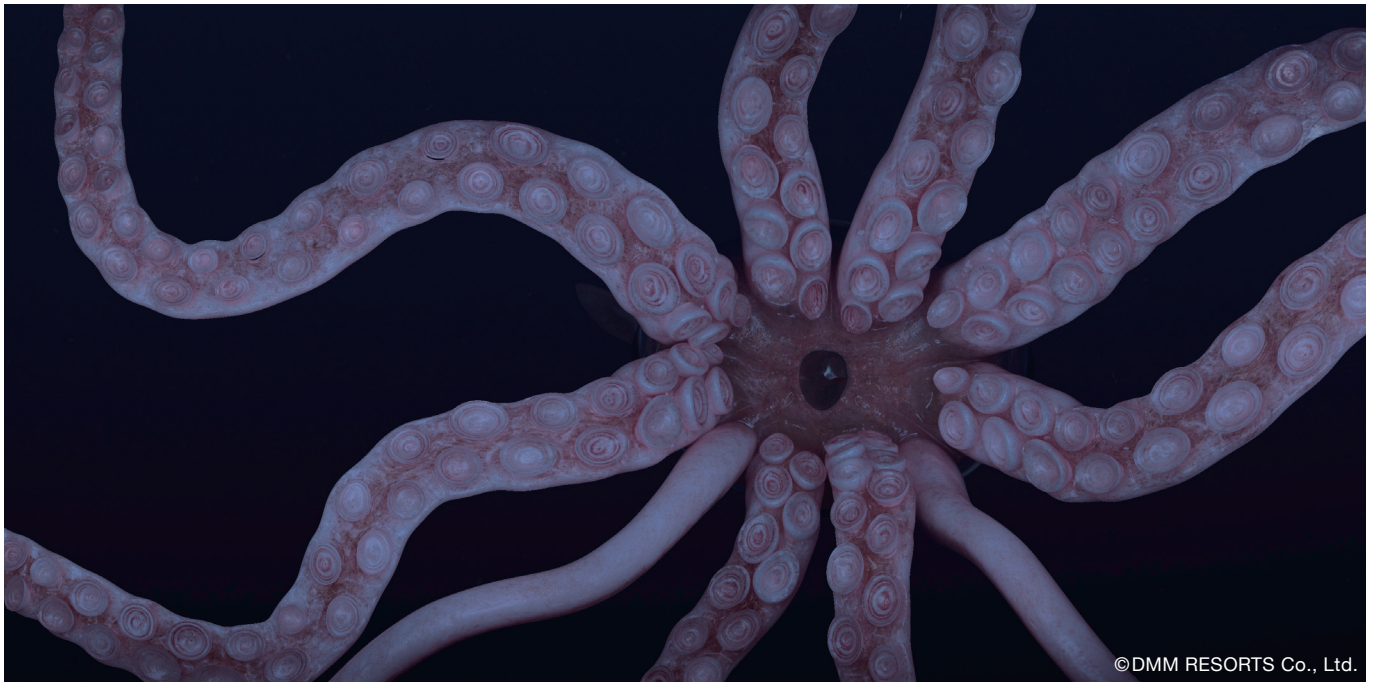


現実を超えた“新しいリアル”を創造

高精細CG映像

高精細CGは、不可能を可能にする映像技術。
現実には出会えない生物を泳がせたり、サイバー空間で音楽ライブを開催したり。
時代を切り拓く、新しい映像体験を生み出します。



©DMM RESORTS Co., Ltd.

6KフルCGの巨大ダイオウイカが来館者の目の前に貼り付く瞬間 (DMMかりゆし水族館)

20年に渡り培ってきた技術とノウハウを生かし いままでにない新しいCG映像体験を

NEPが初めて高精細8KCGの制作に着手したのは2003年頃。実写とCGを融合した世界初の8K映像で、宇宙から渋谷のスクランブル交差点へとズームインするシーンを制作しました。

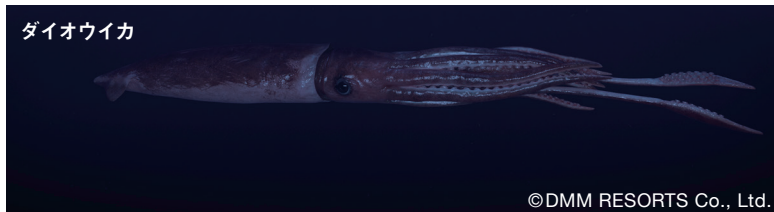
それから約20年で品質は飛躍的に向上しました。現実には展示が不可能な巨大海洋生物をCGで制作して水族館の“バーチャル水槽”に泳がせたり、異空間に没入しながら音楽ライブを楽しめる新感覚エンタメをCGで創造したり……。幅広い分野で活用されています。

水族館の常識を覆す バーチャル水槽が沖縄に登場

2020年5月にオープンし、沖縄の新たな観光スポットになっている「DMMかりゆし水族館」。館内1Fフロアでは突如、体長約20mのダイオウイカが出現します。実はこれ、NEPが制作を手がけた6KのフルCG映像。深海のダイオウイカが目の前で優雅に舞い、10本の長い足を広げてアクリルパネルにベタリと張り付く姿には多くの来館者が釘付けに。未知の生態をフルCGで可視化するバーチャル水槽は、同館の目玉の一つになっています。

バーチャル水槽に泳ぐ海洋生物を6KCGで動きや質感、細部までリアルに再現

ダイオウイカ



©DMM RESORTS Co., Ltd.

深海を泳ぐ姿を実際に見るのはほぼ不可能なダイオウイカを、等身大(約20m)の高精細CGで

オオカマス



©DMM RESORTS Co., Ltd.

大群をなして回遊する姿を、海中に差し込む幻想的な光までリアルに表現

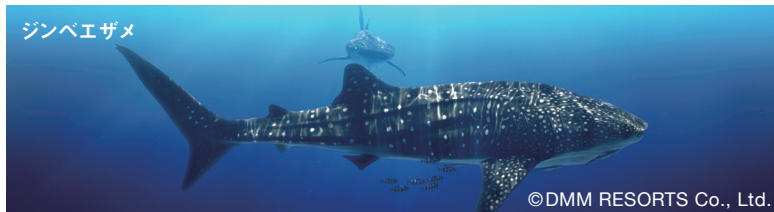
リュウグウノツカイ



©DMM RESORTS Co., Ltd.

飼育が困難なリュウグウノツカイも、バーチャル水槽では約10mという体長そのままに観察可能

ジンベエザメ



©DMM RESORTS Co., Ltd.

体長約15mのジンベエザメ2頭も展示。水槽の左右から二つの巨体が現れる光景はまさに圧巻

沖縄県豊見城市に2020年5月にオープンした「DMMかりゆし水族館」では、“バーチャル水槽”の巨大なアクリルパネルに投影された、等身大の4種の海洋生物(左の写真)が悠々と回遊する姿を観ることができます。観た瞬間、本物だと勘違いしてしまう人もいるというリアルな生物の映像は、いずれもNEPが制作した6Kの高精細CGです。

CG制作は、対象となる生物の生態をできる限り正確に把握するためのリサーチからスタート。水族館で泳ぎ方を観察することができない生物については、各方面から映像資料を収集。ダイオウイカの場合、2012年にNEPが世界で初めてその生きた姿の撮影に成功した映像が役立ちました。

その後は来館者を楽しませる「シーンの構成」、完成イメージを共有するための「ビデオコンテの制作」、映像の精度を高める「作り込み」、現地の展示環境を再現して行う「試写」へと、各工程でクライアントの要望を取り入れながら進行。

今回は高知県立足摺海洋館館長の新野大氏に監修を依頼し、ディテールの正確な再現を徹底。ジンベエザメのCGでは、骨格の構造やヒレの動き、皮膚表面の質感、寄生するコバンザメの種類など、リアルな生態を再現する映像品質を追求しました。

高精細CG映像とセンサー技術を組み合わせれば、見る人の動きに合わせてイルカが様々なアクションで応えるといったインタラクティブな演出も可能。既存のリアルな展示にバーチャルを融合することで、水族館の新たな魅力を引き出すことができます。

音楽・エンタメや自然科学など、幅広い分野で活用されるNEPの高精細CG



「Aoi - 碧 - サカナクション」

©NEP・NT

8Kの3D映像と立体音響の融合

2015年「サカナクション」の8K/3D映像を再構成し、楽曲「Aoi」を22.2chの立体音響で流し、CGによるグリッド空間から海底、都市、宇宙へと引き込み、最後にt等身大のメンバーが演奏する仮想のライブ会場に誘います。

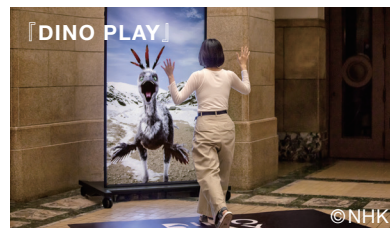


「東京VICTORY」

©NEP・NT・RECO Lab・WVTL

8K×モーションライドの没入感

2017年、クリエイティブビジネスの見本市「SXSW2017」に出展。サザンオールスターズの「東京VICTORY」をBGMに、東京の過去・現在・未来を時空移動する「8K:VRライド」というコンセプト。都心上空の滑空シーンは全てCGです。



「DINO PLAY」

©NHK

インタラクティブ映像の可能性

2019年に上野国立科学博物館で開催された「恐竜博」には、等身大スケールの「トロオドン」の生態を4K/CGで再現。動作に反応して恐竜もアクションするインタラクション技術で新たなCGの楽しみ方を体感できます。